

## 予算決算常任委員会における国民スポーツ大会推進課への質疑に対する補足説明

令和8年(2026年)3月17日

飯山市長 江沢 岸生

3月11日に開催された令和8年3月定例会 予算決算常任委員会において、議員の皆様から出された国民スポーツ大会推進課への質疑に対し、回答に不足があったことから、改めて議員の皆様にお集まりをいただき下記の3点について補足説明を行いました。

### 1点目「交付金の将来における活用について」

委員会の質疑において、飯山市が今回の人工芝化を実施しないと、国から飯山市はジャンプ台のサマー化に後ろ向きであるとの印象を持たれる。この印象により、今後予定するスモールヒルとミディウムヒルの人工芝更新の際に、国の地方創生の交付金活用が難しくなる可能性がある。

と部長から申し上げたが、それに補足して、

現状は、地方創生の交付金の、単なる施設更新等への活用は難しいが、国も交付金の制度や要件を見直す流れの中にあり、地方が創意工夫して地域の活性化に繋げるといふそもそもの交付金の目的の中で、将来的には現状の人工芝の更新に活用できる可能性もあると考えている。

飯山市がシャンツェの通年活用を進め、経済活性化と交流人口の増につなげるという計画をもって、将来の交付金の拡充につながるよう、国への要請などにより、今後の維持・更新経費の財源確保に努めたい。

### 2点目「経済波及効果の算出に想定している大会(インカレ)の実現可能性について」

委員会の質疑において「インカレや大会週間などは、開催が確定していないのではないか」との問について

経済波及効果の算出に想定している全日本学生スキー連盟(学連)の大会(インカレ)については、学連事務局との話合いの中で、

- ・2027年大会(青森県大鰐町)以降の開催地は決まっていない。
- ・アルペン、ジャンプ、クロスカントリー、コンバインドの4競技をまとめて受入れることができる会場が限られる。
- ・飯山市での受入れ表明に期待している。と学連事務局からお聞きしている。

また、令和7年(2025年)9月4日の飯山市スキークラブ主催による「スキー振興講演会～飯山シャンツェから世界へ!～」では、学連会長である若月等(わかつき ひとし)様から次のような発言があった。

「インカレのジャンプ競技では、大きい台と小さい台が必要となり、それが1か所で行えるのは飯山市か鹿角市である。学生は九州から北海道まで点在しているので、日本の中心に近い飯山市で大会が出来れば場所も良いと思う。できれば10年契約でもと思っており、先日連盟の理事会でも話した。飯山のジャンプ台が整備されれば、夏のトレーニングでも活用ができる。インカレは

1,000人で1週間滞在するので、経済効果は学連算出では1億円といわれている」

学連としては飯山市のシャンツェ整備事業の推移を期待して見守っておられる状況であるが、飯山市がインカレの開催地として立候補表明をできれば、国スポ開催後の継続開催の可能性が非常に高いと考えられます。

加えて、ノーマルヒルの人工芝化(サマー化)により、冬季大会に向けた練習の場としての交通の利便性も高く評価され、連盟との繋がりを生かした夏期の合宿の誘致や、新たな夏季大会の開催による更なる経済効果が生まれると考えられます。

### 3点目「経済効果の考え方について」

委員会の質疑において、「飯山シャンツェノーマルヒル改修による国スポ後10年間の経済波及効果の算出結果の説明に対して、ノーマルヒルの人工芝化(サマー化)により増加する経済効果のみの算出ではないことに対して「詐欺」ではないかとのご意見がありました。」

その際、通年の経済波及効果の妥当性について、しっかり説明できなかったもので、あらためてその点を補足させていただく。

#### 通年の経済波及効果算出の妥当性

(1) ノーマルヒルの人工芝化(サマー化)の効果は、夏期利用にとどまらない。

ノーマルヒルの利用期間が、冬だけより約3倍(冬期 約2.5ヶ月→通年約9ヶ月)に伸び、年間を通じた競技施設として、競技施設としての認知度の向上、施設全体の日常的なメンテナンス向上などにより付加価値が向上すると考えます。

(2) アイストラックも含めたノーマルヒルの全体整備により、相乗効果が生まれる。

飯山シャンツェは通年利用が当たり前になり、夏期の合宿やイベント開催による利用増と冬期の大会開催による利用増が相互に影響し合い、相乗効果が生まれ、宿泊施設・飲食店・観光業などに波及し、地域内での経済効果が広がります。

(3) ノーマルヒルサマー化による飯山シャンツェの多様な利用の可能性が広がる。

人工芝部分を使った多様なイベントや、ジャンプ台の斜面を活用したイベント、シャンツェパークとしての景観向上などにより、飯山シャンツェのジャンプ競技だけでなく広がりが期待できます。

①連携協定を結んでいる(株)ザ・ファースト様が持つ各種イベントのアイデアや企画運営ノウハウを最大限活用することで、シャンツェパークの利活用の幅が広がります。

例1)飯山シャンツェをダッシュでかけあがれ！(シャンツェを駆け上る100m走)  
【ゲスト講師:陸上元日本代表銀メダリスト 塚原直貴氏】

例2)飯山シャンツェ！サッカーPKトーナメント、サッカー教室  
【ゲスト講師:サッカー元日本代表 北澤 豪氏・松井大輔氏】  
【ゲスト講師:サッカー元なでしこジャパン 宮間あや氏・岩渕真奈氏】

例3)キャッチボール体験教室

【ゲスト講師:元メジャーリーガー 松井稼頭央 氏・岩隈久志 氏】

【ゲスト講師:元プロ野球選手 糸井嘉男 氏・今成亮太 氏】

②市民が親しめるイベントの会場としての活用を進めます。

例)冬の花火会場、ちびっこそり遊び、花壇整備など

(4) 経済波及効果の算出に対するSNSを通じた疑問について

この度お示した市営飯山シャンツェノーマルヒル人工芝化後のインカレや長野県スキー大会週間等を想定した経済波及効果は、長野県の経済波及効果分析ツールを用いた一つの経済モデルです。(産業連関表による経済波及効果分析)

大会等の過去実績や観光消動向調査データを基礎数値として、飯山市の宿泊や飲食・交通などに新たな需要が生じた際(新たな新規需要増加額:直接お金が落ちる額)の経済波及効果を算出したものです。

委員会資料でお示したとおり、この飯山市の宿泊業及び観光業に新たな需要が生じる額が年間1億9,247万円となり、その需要に対応する生産活動が拡大すると、原材料や資材などの取引や消費活動を通じ、他の産業に次々と、「水面に投げた石が波紋を起こすように」多方面へ影響を及ぼすことにより、10年間で21.5億円という経済波及効果をもたらすこととなります。

こうした点を踏まえ、今回のノーマルヒル整備がアイストラック化とサマー化が相互に波及効果を生むことによる影響を正しく評価するためには、夏期利用に限定するのではなく、通年での経済効果を包括的に勘案する必要があると考えます。このため、現時点で想定される夏期の利用拡大に通年利用の効果を加えた、包括的な経済効果を算出し、お示しさせていただいたものです。